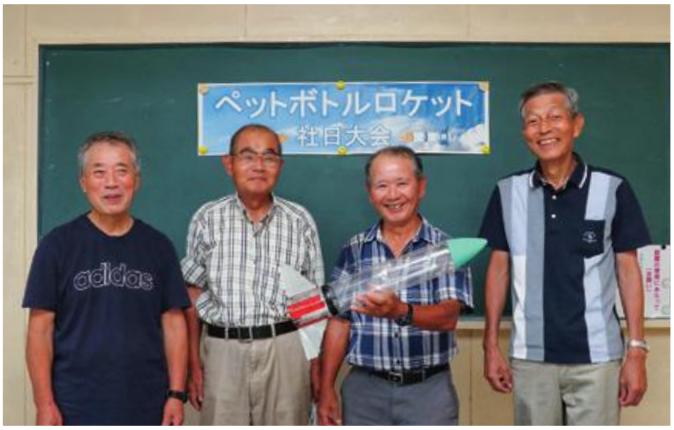
広報 やすぎ 令和2年10月号

きらり光る地域



▲代表の西田さん（左から2番目）とメンバーの皆さん。

科学とものづくりの楽しさを伝える

S.P.K 社日ペットボトルロケット研究会

「3・2・1発射！」。カウントダウンの後、機体が勢いよく空に舞い上がると歓声が沸き起こります。社日交流センターで毎年、小学生向けに行っているペットボトルロケット社日大会。ロケットの製作と打ち上げを行い、飛距離を競います。

飛距離の出るペットボトルロケットを作るには知識と技術が必要。そのため、大会で好記録を出せる機体を作ることは簡単ではありませんが、社日地区には、心強い味方がいます。

S.P.K（社日ペットボトルロケット研究会）。10人のメンバーで構成される同研究会は、ペットボトルロケットの製作技術の向上と科学・ものづくりの楽しさを子どもたちに伝えることを目的に平成24年に発足。毎年、大会の日に指導をしています。

「ロケットが上手く飛んだときの子どもたちの喜ぶ顔を見ると、教えた甲斐があったなと思います」と話すのは同研究会の西田弘志代表。元々ものづくりが好きで小さい頃からよく模型などを作っていたそうです。

そんな西田さんも「会の設立当初は知識がなく、良いロケットを作ることができなかった」と苦笑いを浮かべながら振り返ります。それでも「2年前までは、松江市と合同の大会があり、そこで好成績だった子は筑波宇宙センターに招待してもらえるという事業がありました。社日の子が宇宙センターに行けるように、仲間と研究して飛距離の出るロケットを作れるコツを探りました。」

▲機体がまっすぐになっているか確認する道具。S.P.Kのメンバーが自作したものです。

その結果、西田さんたちが考案した作り方で見事、社日小学校の児童が1位になり、宇宙センターに招待されました。

研究の成果はすぐには結果につながらず、地道な研究を積み重ねて集積することが大切だという信念を持っている同研究会。メンバーと話し合いを行って何度も実験をしてきました。

「私たちは、試行錯誤を繰り返して得た技術を教えています。しかし、子ども主体の製作だということを忘れないようにしています。子どもたちが自分自身でロケットづくりに取り組み、成果を出すことで、科学やものづくりの楽しさを分かってくれるようになると思っています。」

編集後記

▼夏場の屋外での撮影時に気になるのが日差し。たまたま同じ現場で撮影をしていた人に翌日、「あまり日焼けしてないですね」と言われました。自分の腕を見るといつもと変わらず。が、その人の腕は真っ赤になっていました。頑張りの違いを見せつけられ、別の意味で日差しを気にするようになりました（旬）

▼引退を控えた中学3年生を中心に集大成を披露する場として行われた独自の大会や発表会など。応援してくれた家族や学校関係者に感謝の気持ちを伝えようと生徒たちの頑張る姿が各会場にありました。感染予防対策を徹底する中で、取材撮影に快くご協力いただいた関係者の皆さんに感謝申し上げます（つ）

安来市の人口と世帯数　R2.8.31現在

人口合計／　37,942人
（男:18,225人　女:19,717人）
世帯数／14,398世帯

●広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
●自治会宛の発送等につきましては、地域振興課（☎23-3067）までご連絡ください。

VEGETABLE OIL INK

秘書課編集／安来市役所　〒692-8686島根県安来市安来町878-2　電話:23-3010 / FAX:23-3161
ホームページhttps://www.city.yasugi.shimane.jp
メール:hisho@city.yasugi.shimane.jp